

ODA

特定非営利活動法人
沖縄県脊髄損傷者協会

しゃりん 116号

編集：NPO法人 沖縄県脊髄損傷者協会 TEL & FAX. 098-886-4211（平日9:30～17:30）
〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 西棟2階 ボランティア小規模団体室
E-Mail office@okisekikyo.com facebook https://facebook.com/okisekikyo
HomePage http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/ 発行：沖縄県身体障害者福祉協会



2月21日（土）に那覇市総合福祉センターで、平成26年度那覇市地域福祉基金助成事業の共生社会づくり講座第2弾として「リハビリテーション工学を活用した生活セミナー」を開催しました。

このセミナー企画を通して、研究者、教育、医療リハビリテーションの方々と新たにネットワークできたことが最大の成果で、11/13～15の「第30回リハ工学カンファレンスinおきなわ」の連携協力体制が見えました＼(^o^)/

また、琉大@比嘉先生が制作開発した「機械三線」披露では、筋ジストロフィーで24時間介護が必要な西平直樹さんの三線演奏の場面では、泣かないと思っていたのですが、参加者の方の涙につられてしまいました(;O;)。何回聴いても感動です。

また、沖縄リハビリテーション福祉学院作業療法学科1年生の皆さんの運営ボランティアがなければ、

こんな生活の工夫もあるんだ！！

リハビリテーション工学を活用した生活セミナー開催

このセミナーは、実際にリハ工学（後説明）を活用して生活する県内外の障がい当事者が意見交換を行い、様々な支援者（家族、リハ工学エンジニア、建築、まちづくり、行政、教育、リハビリ関係者）を交えて、「離島におけるリハ工学の可能性」について学びあうことを目的に、スピーカー役として剣持悟氏（川村義肢株式会社製造管理部製造開発課設備係長）、宮野秀樹氏（NPO法人ぼしぶる事務局長で頸髄損傷C4）、畠澤孝氏（東京頸髄損傷者連絡会事務局長で頸髄損傷C4）、吉原朝健氏（有限会社ハート義肢製作所スタッフで左下腿切断）、比嘉広樹氏（琉球大学工学部電気電子工学科准教授）、そして、われらの砂川昭人事務局長の計6名で発表し、仲根のコーディネートでセッションしました。参加人数は者スタッフ含めて約70名と盛況でした。特に重度ハンディの方々が多く、交流の場にもなったことが大きな成果と思います。

とんでもなくぐじゃぐじゃなセミナーになっていたかもしれません。凄いフォロー力のあるボランティアでした。感謝です。

気がかりなのは、参加謝の中に福祉用具事業者・補装具事業者等の方が皆無だったことです。リハ工学は身近じゃないのかなー？

リハビリテーション工学とは 物理学や電子工学、機器工学、精密機械工学、情報工学システム工学などの知識を応用して、工学の最先端技術を駆使し、福祉機器や用具の開発・研究を行なう学問。



障がい者の声、反映を サービス等利用計画、4月義務化



4月から障がい者(児)が居宅介護や事業所に通うなどの障害福祉サービスを利用する場合、「サービス等利用計画」の提出を求められるようになる。計画に障がい当事者の声や思いを反映させようと、福祉サービスの在り方を考える円卓セッション「ちゃーすが!自分らしい生き方」が13日、那覇市の県総合福祉センターで開かれた。当事者からは「夢を追いかけられるような計画を作りたい」との思い、計画作りに主体的に関わる重要性が強調された。円卓セッションは、NPO法人県脊髄損傷者協会が主催し、当事者や計画を作成する相談支援専門員、支援者ら52人が参加した。

利用計画は、障がいに応じて最適なサービスが提供できるように、市町村が指定している「指定特定相談支援事業所」の相談員が作る方法と、当事者や家族、支援者が作る「セルフプラン」がある。サービスの支給量は市町村が決める。

参加者からは、一部市町村の中にセルフプランを受け付けない傾向があることが指摘された。相談支援専門員の男性は「行政の中には『前例がない』からといって断るところがあるが、その流れを変えてほしい。やみくもに福祉サービスを受給するような

計画でない限り、むげに断ることはできない」と問題提起した。

セッションの助言者で、愛知淑徳大学教授の谷口明広さんは、障害者福祉サービス提供に伴う費用に対する国、県、市町村の負担割合を紹介。予算よりもサービス受給量が増えた場合、国・県の支出分は変わらず、市町村予算からの持ち出しが増えるため、大半の市町村で抑制が働いてしまう傾向を課題に挙げた。

脳性まひの障がいがあり、那覇市内で在宅生活を送っている友利敏幸さんは「地域での暮らしは、自己決定や自分で選択ができる。施設とは違う」と実感を込めた。筋ジストロフィーを患う宮城秀明さんは「障がい当事者が気概を持って、どんな暮らし方を望んでいるのか、どれくらいサービス量が必要かを伝える力が大切」と呼びかけた。

(3月31日の琉球新報より)



**障がい者の声、反映を
◆利用計画、4月義務化**

4月から障がい者(児)が居宅介護や事業所に通うなどの障害福祉サービスを利用する場合、「サービス等利用計画」の提出を求められるようになる。計画に障がい当事者の声や思いを反映させようと、福祉サービスの在り方を考える円卓セッション「ちゃーすが!自分らしい生き方」が13日、那覇市の県総合福祉センターで開かれた。当事者からは「夢を追いかけられるような計画を作りたい」との思い、計画作りに主体的に関わる重要性が強調された。

円卓セッションは、NPO法人県脊髄損傷者協会が主催し、当事者や計画を作成する相談支援専門員、支援者ら52人が参加した。利用計画は、障がいに応じて最適なサービスが提供できるように、市町村が指定している「指定特定相談支援事業所」の相談員が作る方法と、当事者や家族、支援者が作る「セルフプラン」がある。サービスの支給量は市町村が決める。

参加者からは、一部市町村の中にセルフプランを受け付けない傾向があることが指摘された。「行政の中には『前例がない』からといって断るところがあるが、その流れを変えてほしい。やみくもに福祉サービスを受給するような計画でない限り、むげに断ることはできない」と問題提起した。

セッションの助言者で、愛知淑徳大学教授の谷口明広さんは、障害者福祉サービス提供に伴う費用に対する国、県、市町村の負担割合を紹介。予算よりもサービス受給量が増えた場合、国・県の支出分は変わらず、市町村予算からの持ち出しが増えるため、大半の市町村で抑制が働いてしまう傾向を課題に挙げた。

脳性まひの障がいがあり、那覇市内で在宅生活を送っている友利敏幸さんは「地域での暮らしは、自己決定や自分で選択ができる。施設とは違う」と実感を込めた。筋ジストロフィーを患う宮城秀明さんは「障がい当事者が気概を持って、どんな暮らし方を望んでいるのか、どれくらいサービス量が必要かを伝える力が大切」と呼びかけた。

いつも会費をお支払い頂きありがとうございます。まだの方は事務所へ直接お越し頂くか振込をご利用下さい。

おねがい	会費	正会員	年間 6,000円	 楽天銀行	楽天銀行 第二営業支店(普通) 7104311 (トクビ) オキナワケンセキズイソンショウシャキョウカイ				
	納	助	賛助会員(個人)			一口 3,000円	 沖縄銀行	沖縄銀行 石嶺支店 (普通) 1520193 (特非) 沖縄県脊髄損傷者協会 理事長 仲根 建作	
			入	助	賛助会員(団体)	一口 5,000円			 ながいおつきあい りゅうぎん
		の							

私はことしの12月で、脊髄を損傷して49年になる。八重山高校でクラブ活動中に鉄棒から落下して下半身まひの障害を負ったのは東京オリンピックの翌年の1965年。高校2年生の17才の時である。事故翌日に空輸されて、旧那覇病院に入院した。

私は当時、中学・高校と運動部で活動を続けていた。しかし一瞬の事故で、下半身の自由を失ってしまった。事故当時は、出血すらない事故だったためあまり心配していなかった。損傷した背骨を頭と腰の両方からけん引して経過を見ていた。しかし日がたつにつれ下半身のまひが治らないことが分かり、心の葛藤が始まった。

当時の那覇病院にはリハビリテーション科はなく、整形外科病棟には、数人の脊髄損傷者が長期に入院していた。治療や訓練をするでもなく、車いすでは自宅に帰れないため、入院を続けている人々であった。私はリハビリの訓練を受けたいと思い、1年半後に退院して、当時、那覇市首里石嶺にあった沖縄身体障害者更生指導所に入所した。ここは復帰前、唯一の物理療法室や作業療法室、職業訓練室を備えた新しい更生施設であった。

しかし正式な免許を持った療法士は一



高嶺 豊
さん

復帰前の 沖縄の障がい者

人もおらず、皆本土で研修だけを受けた方々であった。だが彼らは、沖縄のリハビリテーションを引っ張っていく熱意にあふれていた。そこで私はしばらく基本的なリハビリを受け、膝を補装具で固定して両松葉づえで歩けるまでになった。

当時の沖縄は車いすでは外出できない状況で、バスの乗り降りや階段の上がり下がりなど松葉腰で歩かざるを得なかった。寮は畳間で重度障がい者を対象にしてなかった。私のような脊損者は、よくお尻に床擦れをつくったものである。この施設には3年間お世話になって借家の自宅に戻ったが、そこでも畳間の生活が続いた。

その後私は短大に通って英語を学び、74年には社会福祉を学ぶためハワイ大学に留学した。90年から2003年までタイのバンコクにある国連事務所で、アジア太平洋地域の開発途上国の障がい者政策に関わった。過酷な状況にあるアジアの障がい者への支援ができたのは、復帰前の沖縄で障がい者として自立を目指した経験が私の原点となっていたからである。

(2014年12月13日に琉球新報に掲載された「心の扉を開いたら」より)

郵便葉書を無料でゲット ～青い鳥郵便葉書 6月1日まで～

日本郵便株式会社が毎年行っている「青い鳥郵便葉書の無償配布」が今年も始まりました。

障がい者が1級または2級の方は最寄りの(簡易郵便局ではない)郵便局へ行き、窓口にある「青い鳥郵便葉書配布申込書」に必要事項を記入して身障手帳と一緒に窓口へ提出すると、官製葉書が20枚無料で手に入ります。ぜひご利用下さい。ご自分で郵便局へ行けない方は、誰かに頼んで申請してもらうことも可能です。なお、この事業は締め切りが6月1日ですので申請はお早めをお願いします。詳細な情報と申込用紙等はインターネットで公開されていますので、右記のアドレスより確認ください。

今後の予定

手動装置等車両整備点検 1 日目
県総合福祉センター (4/25土)

手動装置等車両整備点検 2 日目
沖縄リハビリテーションセンター病院 (4/26日)

九州ブロック定例会参加 (砂川)
福岡県クローバープラザ (5/9～10)

第 3 回通常総会
県総合福祉センター (5/24金)

青い鳥郵便葉書の無償配付 (日本郵便株式会社)

<http://osu.pw/abbbi>



活用されています！寄贈車両

ここ2ヶ月の間、沖脊協の寄贈車両が運転の練習や手動装置の見学などでよく利用されるようになってきました。左上の写真の木村さんの場合、入院している病院から事務所を訪れ、車両を一日中借りて他の車がないところで練習する方法で3回ご利用がありました。事務所がある沖縄県総合福祉センターは広い駐車場が、ちょっとした運転の練習もできますので、お気軽にお問い合わせください。


りゅうぎんディーシー助成金 ～平成26年度社会貢献助成交付式～

2月23日、りゅうぎんディーシー（代表取締役社長 新垣浩一）様より平成26年度社会貢献助成の交付を受けることができました。

助成は「沖縄の脊髄損傷30年の記録」の作成に活用で、創立30年の節目として、会員のメッセージやスポーツクラブの紹介などをDVD化します。

「新脊損者への励まし」を目標に、有効に活用させていただきます。感謝です！（仲根）





Rehabilitation Clinic Yamaguchi

リハビリテーションクリニック やまぐち

〒900-0003 那覇市安謝 1-10-28
TEL 098-864-1100

安らぎ・癒し・元気を提供します。

診療スタッフ

医師 院長 山口 健 リハビリテーション科専門医
副院長 山口 浩 整形外科専門医

リハビリテーション 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師

診療科目/リハビリテーション科・整形外科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～11:30	○	○	○	○	○	○
午後 2:00～ 6:00	○	○	○	○	○	△

▲ 国道58号 奥武山

● 佐川急便

● ファミリーマート

● ローソン

● 那覇国熱高校

● 天久りょうぼう薬市

● 新都心公園

● あっぶるタウン

● 興立博物館・美術館

● 首里

● メインプレイス

バリアフリースポット 味と踊りの竜宮城「うらしま」

那覇市久米にあり、ビル2階エレベーターでアクセス。店内は広く、200名ほどが入れる規模です。車いす対応テーブルも多く、団体さんでも大丈夫。車いすトイレも広く、快適です。

今回は、県外からの電動車椅子ユーザー友人ら8名で行きました。事前に予約していたので舞台前の特等席で琉球料理会席を堪能。舞台終了後は記念写真もバッチリでした。

近くには「東横イン旭橋」等のバリアフリー室があるホテルも多く、障がい者の観光客のおもてなしにもとても良い所だと思います。



味と踊りの竜宮城
うらしま

那覇市久茂地2-10-6
新垣ビル2F
TEL:098-861-1769
FAX:098-868-9256
営業時間18:00~23:00
info@urashima.jp



快挙! 牧志さん会長賞連続受賞 ~那覇市障がい者美術展~



那覇市障がい者美術展にて、会員の牧志努さんが昨年に引き続き陶芸の部で那覇身協会会長賞を受賞しました。作品が昨年より明らかにレベルアップしています。おめでとうございます!

牧志さんはヘルパーステーションコミットで週2回陶芸教室を利用して陶芸の腕を磨いています。

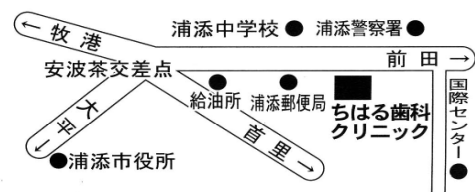
ちはる歯科クリニック CHIHARU DENTAL CLINIC

浦添市仲間3-3-9

☎(098) **877-6480**

FAX (098) **877-9251**

E-mail chiharu@ryukyu.ne.jp



訪問歯科診療と口腔ケアを行なっています!

対象者: 在宅療養をしている個人で、通院が不可能な方。
病院、保健施設等に入所(院)されている方、障害者施設に入所の方。

障がい者手動装置等 改造車両整備点検のお知らせ！

障がいを持つ人にとっては、足代わりとなる大切な車、整備の不備や故障で使えなくなると日常生活に大きな支障をきたします。この機会に、点検を受けませんか？

南部地区

期日：平成27年4月25日（土）

時間：13:00～17:00

場所：沖縄県総合福祉センター1階広場



主催：NPO法人沖縄県脊髄損傷者協会

協力：(株)ニッシン自動車工業

料金：無料（但し、部品代金は別途徴収）

申込：希望する場所に直接お越しください

【お問い合わせ】

沖縄県脊髄損傷者協会事務局

電話：098-886-4211（FAX兼用）

E-mail office@okisekikyo.com

この事業は沖縄県社会福祉振興基金助成が
充てられています



中部地区

中部初開催

期日：平成27年4月26日（日）

時間：10:00～15:00

場所：沖縄リハビリテーションセンター病院



交通事故の法律相談

人身事故被害に関する法律相談は、
おもろまち法律事務所へ

那覇市おもろまち4-17-25T&C新都心ヒルズ804

弁護士 坂井大高（沖縄弁護士会所属）

【完全予約制】☎(098) 963-6268

※ご予約の際「しやりん」を見たとお伝えください。



◆人身事故被害の【無料】法律相談を実施しています。

移動が困難な方には、出張相談や電話相談のご利用が可能な

場合もありますので、お問い合わせください。

相談例：後遺障害等級、賠償金額の増額交渉、休業損害、慰謝料、
労働能力喪失率、治療の打ち切り、自宅改造費用 など